

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聴覚・ろう重複センター茜		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 29日		～ 令和7年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 29日		～ 令和7年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	聴覚障害の特性に合わせた専門性のある支援に取り組んでいる。	子ども一人一人に合わせて、手話、口話、指文字、表情、身振り、写真、絵カード等の視覚的コミュニケーションを大切にしている。また、子どものペースに寄り添った支援を意識して行えるよう努めている。	より専門性を高めるために、社内研修を充実し、職員の支援の質や知識を高めていく。また、外部研修に積極的に参加し、支援の技術や知識を学び、実践に活かしていく。
2	子ども自身がやってみたいこと、もしくは挑戦してみたいこと、興味があることを事業所の活動として取り入れて楽しむ経験を大切にしている。	子どものニーズに合わせて、個別活動と集団活動を提供し、子ども達が活動の選択ができるよう努めている。また、学校休業日・長期休暇では、利用者の意向や希望が反映された企画(調理、お出かけ等)を設け、子ども達にとって多様な経験ができるよう工夫している。	企画の内容がマンネリ化にならないよう、その都度、子ども達が興味あることを積極的に取り入れていく。
3	子ども達にとって、幅広い年齢層の子どもとの関わりができる環境になっている。	活動を通して、幅広い年齢層の子どもと関わりながら、相手の気持ちを考え、相手を思いやる気持ちを育む環境を大切にしている。年下の子どもが年上の子どもから色々なことを学ぶ場面、また年上の子どもが年下の子どもをサポートすることで自信につながる場面を大切にしている。	年齢層の近い子ども同士で関わることも多く見られ、子どもの気持ちを尊重しつつ、幅広い年齢層の子どもとより関わるよう働きかけしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、ホームページやInstagram等、事業所の情報を発信しているが、保護者への認知度が低い。	保護者にホームページやInstagramの情報を周知したが、こちらの想定より認知されにくい状況だった。	事業所の情報をホームページやInstagramにて発信していることを、改めて保護者に周知していく。
2	保護者同士の交流の機会があまりない。	働いておられる保護者も多く、保護者同士の交流のニーズが比較的薄いと思われる。	保護者の中で、交流のニーズがどのくらいあるのか確認した上で検討していく。
3			